

小中学校での防災教育について

(一社)建設コンサルタンツ協会中国支部 防災委員会

防災委員会では小中学校や地域の公民館等で、平成17年から防災教育講座を行っています。

最近の実績(一部抜粋)は以下の通りです。

小学校、中学校で4～5校/年間の実績があり、200名を超える人数にも対応可能です。

年度	会 場	人数
平成26	H26.08.20 広島土砂災害	
	広島市安佐南区梅林学区自主防災会連合会	約100名
平成27	三次市三次小学校(5年生):広島県砂防課出前授業	51名
	広島市佐伯区五月が丘四丁目 防災を考える会	47名
平成28	広島市立中島小学校(3年生)	78名
	広島市立久地南小学校(5年生)	30名
平成29	広島市立矢野西小学校(5年生)	83名
	広島市立毘沙門台小学校(3年生)	67名
平成30	H30.07.06 西日本豪雨災害	
	広島市立大洲小学校(5年生)	83名
	広島市立井原小学校(全校生)	56名
令和元	広島市立戸坂中学校(2年生)	181名
	広島市古田小学校(6年生)	129名
令和2	広島市立中野東小学校(5年生)	35名
	広島市立上温品小学校(5年生)	50名
令和3	広島市立温品小学校(4年生)	63名
	広島市立井原小学校(小学全学年)	21名
令和4	呉市立阿賀阿賀中学校(1年生)	95名
	広島市立梅林小学校(5年生)	96名
令和5	広島市立翠町中学校(1年生)	251名
	広島市立山田小学校(5年生)	23名
令和6	広島市立城山北中学校(2年生)	135名
	広島市立山田小学校(5年生)	16名
	広島市立幟町中学校(1年生)	90名
令和7	広島市立己斐小学校(5年生)	101名
	広島市立己斐東小学校(4年生)	32名
	広島市立似島中学校(全校生徒)	48名

防災教育講座の内容

防災教育講座では、以下のような内容を実施しています。受講者の学年、授業時間数やご要望に合わせ、内容を組み合わせてカスタマイズした講座を行います。

1.災害の概要(土砂災害、洪水災害、地震災害):20～45分

各種災害の特徴を事例を交えて解説します。時間の都合や立地条件により災害の種類を限定できます。

2.警戒避難:20分

土砂災害や洪水災害は雨の降り方と密接に関連します。どのような雨が災害につながるか、災害が発生した場合にはどのような行動をとるかについて解説します。

3.ハザードマップの作成(土砂災害、洪水災害、津波災害):45分

本委員会の防災教育講座独特の内容で、自宅周辺の危険区域を直接地図で書き込むことにより、防災意識を高めることができます。作業は5～6人の班毎に、以下の手順で行います。

- ①白地図に自宅の位置をプロットする。
- ②自宅周辺の危険区域(崖崩れ、土石流、洪水、津波)を危険区域図を見ながら白地図に書き込む。
- ③自宅周辺に設置された避難場所を白地図に書き込む。
- ④自宅から避難場所への避難路を書き込み、途中で危険なところが無いか確認する。
- ⑤作成したハザードマップを班毎に発表する。

4.マイタイムラインの作成:15分～25分

作成したハザードマップを使いながら家族で避難する場合のマイタイムラインを、ひとり一人が作成します。

5.防災冊子を使った避難行動:10分～20分

「私の避難ストーリー」(高潮編、洪水編、土砂災害編)を使用して、時系列に沿って避難行動を学びます。

6.ドローン飛行見学

天候や条件が揃えば、ドローンから撮影した学区内の街の様子をご覧いただけます。

※ハザードマップ作成は、コロナウイルス感染対策としてグループワークではなく個人作成でも対応可能です。



広島土砂災害の解説



崖崩れとは



土石流とは



地震災害(阪神淡路大震災)

津波被害(東日本大震災)

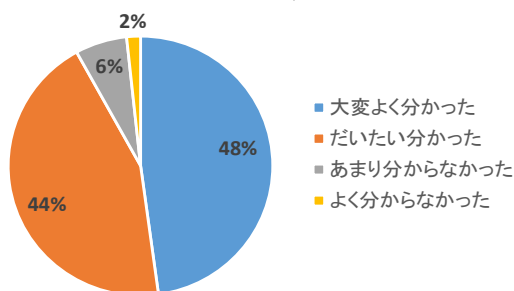
現地調査を行い、身近な危険区域を紹介



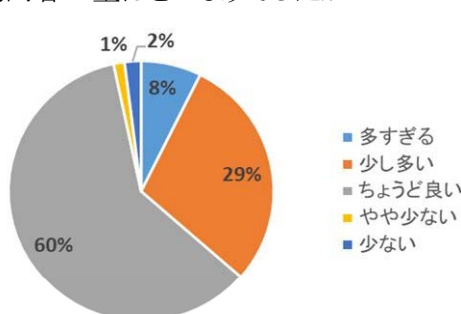
児童・生徒の感想(アンケート結果)

授業後のアンケートでは、「大変よく分かった」、「だいたい分かった」の回答が多く、災害や避難に対する知識の向上と災害を自分事として考えるきっかけに繋がっています。

Q:授業の内容はどれくらい理解できましたか？



Q:授業内容の量はどのようでしたか？



Q:授業を受けた感想を書いてください。

- ・ すごく分かりやすい授業でした。
- ・ 災害のことがリアルに感じられた。
- ・ 自分が逃げる場所や、道がよくわかりました。
- ・ 災害のことが分かりやすかった。
- ・ 避難の時はここに避難したいいなと分かりました。
- ・ よく分かったし避難する場所はこんなにあるんだなと思いました。
- ・ この経験を活かして他の人にも教えたいです。
- ・ 災害が起きた時に生かそうと思います。
- ・ 防災のことがわかって良かったです。
- ・ 知らなかったこともわかったし、知っていたことも詳しくわかったのでよかったです。
- ・ 楽しかった。
- ・ わかりやすかったです。
- ・ 悲しい映像もあったけど、分かりやすかったし、楽しかったです。
- ・ とても楽しかったし、色々学べたのでよかったです。
- ・ もしも災害が起こった時どうすれば良いのかが分かって良い経験になった。
- ・ 避難の仕方が学べて良かったです。



一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 中国支部

1. 建設コンサルタントという仕事

私たちの生活や産業に欠かせない様々な施設（ライフライン、交通、安心・安全施設）は、社会共有の財産であることから「社会資本」と呼ばれています。

私たち建設コンサルタントは、「社会資本」の整備のための企画、調査・計画、設計、維持・管理などの段階で、国や地方公共団体などのパートナーとして関わっています。

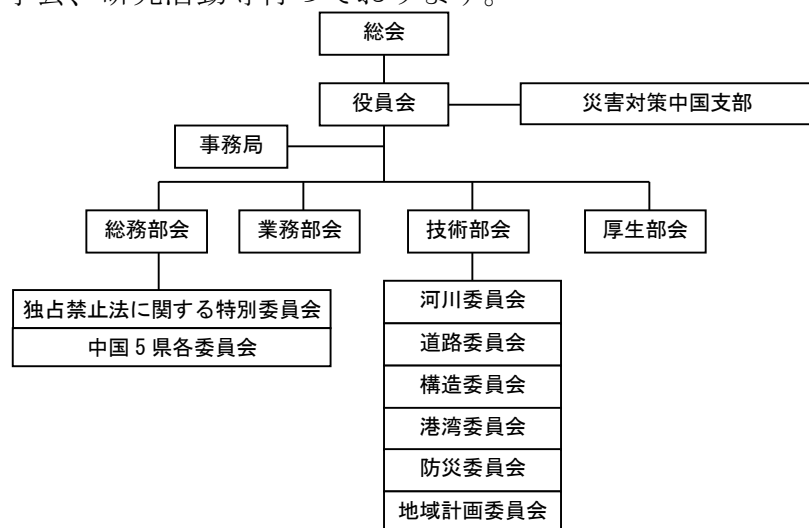
専門的知識を駆使し、国民により良い社会資本を適正な価格で提供し、中立・独立のプロフェッショナル集団としての役割が求められています。

2. 協会の活動

一般社団法人建設コンサルタンツ協会は、魅力のある(Attractive)、技術を競う(Technologically Spirited)、独立した (Independent)知的産業を目指して活動している公益法人です。

最近では、プロフェッショナル集団としてその技術的知見を国民に発信する活動として、「専門家としての社会貢献活動」を進めています。

中国支部は、中国5県（鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県）における建設コンサルタントの活動を支援しています。現在、技術部会下部組織として、会員各社の有志で構成された河川・道路・構造・港湾・防災・地域計画の6委員会を設け、社会貢献事業、講演会開催、見学会、研究活動等行っております。



防災委員会メンバー



広島弁護士会館での防災講演会

協会の場所



お問い合わせ先

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 中国支部
 〒730-0013 広島市中区八丁堀1番8号 GRIT8階
 TEL : 082-227-1593 FAX : 082-227-4940
 E-mail : cg-jcca@sage.ocn.ne.jp



一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 中国支部

技術部会 防災委員会

中国地方においては、地震災害や豪雨災害が頻発しています。防災委員会では、安全で安心して生活できる社会の形成に寄与するため、防災に関する活動に取り組んでいます。

1. 社会貢献事業—防災教育—

令和7年度、地域住民の被害軽減のために、防災教育を12箇所において行い、防災に関する理解を深めていただきました。

- ・広島市立己斐小学校 5年生
- ・広島市立己斐東小学校 4年生
- ・広島市立似島中学校 1～3年生
- ・広島市立楠那中学校 1～3年生
- ・広島市矢野公民館 高齢者
- ・広島市川内学区自主防災連合会 防災士
- ・岡山市上道公民館他3箇所 自主防災会



ハザードマップ作り



UAV飛行見学

2. 講演会開催

講演会は、毎年テーマを決めて行っています。令和7年度は2回のWEB講演会を開催しました。

第1回「活断層と地震で体験したこと」

- ・活断層と地震への備え—近年の活断層地震から— 広島大学大学院人間社会科学研究科教授 後藤秀昭
- ・阪神・淡路大震災30年 北淡震災記念公園総支配人 米山正幸
- ・熊本地震において、出来たこと、出来なかったこと 元熊本県副知事 田嶋徹
- ・能登半島地震の支援活動 広島弁護士会 弁護士 友清一郎、真田聖也、村山省太

第2回「大規模災害で起こる諸現象とその後について」

- ・森林・水門・地形モデリングに基づく斜面崩壊予測 京都大学防災研究所教授 松四雄騎
- ・崩壊跡地の植生回復について 福山市立大学都市経営学部教授 加藤誠章
- ・国土交通省の土砂災害の取組み紹介 中国地方整備局西部山系砂防事務所所長 佐々木美紀
- ・避難所の住環境確保への支援 広島建築士会 北本拓也、塚田忠則、宮迫勇次

3. 事例研究

建設コンサルタントの実務者が自分たちの実務経験に基づいて事例を報告し、技術力の共有、向上を目指しています。また、現地見学会により知見を広めています。

「高規格道路の施工中に発生した“小さな”地すべりの調査・対策」 日本工営 小林義之

「地質の3次元ソフト」 ヒロコン 木本建

「水文観測業務」

西部技術コンサルタント 小野雄輝

「土砂災害警戒情報の発表基準設定の基礎的な検討」

中電技術コンサルタント 池田寛

「斜面崩壊地での調査事例」

広建コンサルタンツ 近藤吏司

「熊本地震から10年 被災当時と現在の様子」

シンワ技研コンサルタント 青原啓詞

現地見学会

「人と防災未来センター・野島断層保存館見学」



防災見学会

お問い合わせ先

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 中国支部
〒730-0013 広島市中区八丁堀1番8号 GRIT8階
TEL:082-227-1593 FAX:082-227-4940
E-mail:cg-jcca@sage.ocn.ne.jp